

復旧に向けて着々とすすむ

対応

▶ 被災現場の復旧作業



荒砥細野線（滝野地内）で大規模な土砂崩落が発生し、道路も陥没しました。近くには民家もあり生活用道路として使用されているため、一日でも早い通行再開を目指し、現在応急対応にあたっています。



円福寺線（横田尻地内）で土砂崩落が発生し、土砂が民家にまで押し寄せました。その影響で一時全面通行止めになりましたが、現在は土砂を除去した後に土のうを設置し、全面通行が可能となりました。

▶ 早期復旧に向けた取り組み

【8月4日 国土交通省を訪問】



右から鈴木衆議院議員、栗田事務次官、佐藤町長、今野議会議長

【8月4日 総務省を訪問】



右から鈴木衆議院議員、黒田事務次官、佐藤町長、今野議会議長

災害発生から7日後、佐藤町長と今野議会議長は、鈴木憲和衆議院議員とともに、国土交通省（栗田事務次官）と総務省（黒田事務次官）を訪問。災害状況を伝えた上で、早期の復旧にむけて支援を要望しました。

今後の復旧に向けて

梅雨前線の影響に伴う7月豪雨につきましては、本町のみならず、県内、さらには全国各地に大きな被害をもたらしました。国におきましては、山形県の7月豪雨を激甚災害に指定するところが決定し、被害を受けた自治体の財政負担を軽減し、道路や河川の復旧を後押しするとしています。

本町におきましても国の支援を受けながら早期の復旧に努めていきたいと考えておりますが、現在はその復旧費用の災害査定を受けるための準備を進めているところです。

なお、災害査定については、10月から11月頃の予定との情報であり、本格的な復旧工事についてはその後の対応となる見込みとなりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

また、小規模な農地・農業用施設に関しては、受益者の方々自らの復旧の取り組みを支援する制度を創設しております。各地区の区長さんと調整の上、ご活用ください。

一刻も早い復旧に向けて、町としてもできる限りの努力をしていくといたします。また、このような災害はいつでも起こりうるという認識を持ち、単なる現状復旧ではない、防災・減災の対応が必要であることを強く要望してまいります。

記録的な豪雨をもたらした

爪痕

7月28日に本町を襲った記録的豪雨の被害状況の全容がわかってきました。今回の雨は白鷹雨量観測所のデータによると、降り始めからの累加雨量では260ミリを記録し、平成25年、26年の豪雨を上回る雨量を観測しました。町内各所で土砂崩落や陥没、冠水が発生し、道路（国・県・町道、林道など）や農地などで被害が発生しました。



7月29日、鈴木衆議院議員が滝野地内の被災現場を視察



8月2日、吉村知事が国道348号の被災現場を視察



道の半分以上が崩落した黒鴨線



大規模な土砂崩落が発生した置賜東部線



冠水により、泥をかぶった枝豆（高玉）

合計避難者数 121人

- 【避難者の状況】
- ▼ 蚕桑地区コミュニティセンター 3人
 - ▼ 鮎貝地区コミュニティセンター 15人
 - ▼ 荒砥地区コミュニティセンター 53人
 - ▼ 十王地区コミュニティセンター 11人
 - ▼ 鷹山地区コミュニティセンター 23人
 - ▼ 東根地区コミュニティセンター 3人
 - ▼ 分館などへの自主避難者 13人

合計被害額 約13億9930万円

- 【土木関係の被害】
- ▼ 道路60路線、河川42河川、橋梁3カ所
被害額 約10億円

- 【農林関係の被害】
- ▼ 農作物 151.2ヘクタール
被害額 約4583万円
 - ▼ 農地・農業用施設 94カ所
被害額 約2億7866万円
 - ▼ 林道 15路線
被害額 約7481万円

- 【建物被害】
- ▼ 床上浸水 2件
 - ▼ 床下浸水 23件

7月28日豪雨による被害状況
(9月1日現在)